



→満杯の客を乗せて出発する舟。むこからも満杯の客を乗せてやって来る。

←このゴールデンウィークに、矢切でもいっせいに田植えが終わった。



矢切畑の田んぼに水が引かれ、ゴールデンウィーク中にいっせいに田植えが行われ、田に早苗がそろった。

「むかしはこのあたり、みんな田んぼだったのよ。それが東京の地下鉄工事が出た泥を運んできて田んぼを埋めていまのようなネギ畑になったの」

田植えをしていた農家の主婦の話によると、いまは畑にした農家も年寄りになってつくらなくなったという。

「でもねえ、農家は機械代が高くて儲けにはならないわ」

たいていの農家が二〜三軒共有で農機具を買って節約しているそうだ。

「そうまでして米をつくってるけど、近ごろは米を食わなくなったから、余るのよねえ」

たとえ余っても農協には出さないのだそうだ。農家をやめた家に直接売るといふ。けつきよく、稲作は農家の暮らしをそれほど支えてはいない。先祖から続いた水田だから、自分たちの代で終わらせたくないだけで米づくりを続けているにすぎないようだ。

そんな田んぼを横目に矢切の渡しに

今週のクマ

→ゴールデンウィークのにぎわいを横目に、日陰でくつろぐクマ。



→シベリアやカナダを經由して遠くオーストラリアに飛び、その途中に日本に立ち寄る珍鳥ムナグロを求めてカメラマンたちが集まって来る。



行ってみると舟頭さんの機嫌がいい。

「この一週間、天気の良いこと。珍しいね。いいゴールデンウィークだった」

五月四日には舟を二はい出した。五日には三ばい出した。おかげでいい稼ぎができた。舟頭さんは満足だ。

このゴールデンウィークで目立ったのは、孫を連れてたじいさん、ばあさんだった。九連休とかで各地の高速道路が混雑するというテレビニュースのせいで、遠出をひかえた家族連れが多かったせいだろうか？

東京方面から舟に乗って来る客にそんなパターンが多かった。もちろん矢切から柴又に渡る客もどうようだった。

ゴールデンウィーク中のテレビニュースを見ると、海外旅行やふる里へ帰省する家族連ればかりが目立ったが、矢切の渡しのようにささやかな楽しみについやした人が多かったのも今年の連休の特徴だったように思う。

それと、もうひとつ特徴的だったのは矢切畑に鳥の写真撮りに来た鳥屋さんたちがやたらに目立ったことだ。地球を南北に移動する旅鳥のムナグロが姿を見せたからだ。にぎやかな矢切だった。